

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1296700014		
法人名	有限会社 かづみ		
事業所名	グループホーム あんしん睦沢		
所在地	千葉県長生郡睦沢町川島757-1		
自己評価作成日	平成25年1月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成25年2月5日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

農家の民家を利用し、家庭的な温かみを感じ、緑豊かな自然に恵まれ、季節を感じている。また、利用者主体でスタッフは、本人が出来ない事・困っている所をサポートし、寄り添いながら、少しでも笑顔になれる様支援している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム あんしん睦沢」は農家の土地・建物を活用した施設である。入居者と職員は古民家のぬくもりを感じながら、豊かな自然に囲まれながら四季の移ろいを共感し合いながら日々生活を共にしている。施設内には神棚・縁側・襖・障子・欄間等、懐かしい品々が残されており、各居室も個々に違った趣が感じられ、施設全体が入居者には馴染み深く、居心地の良い生活空間となっている。職員は入居者・家族の要望・思いに常に耳を傾けると共に、外部研修受講の機会が設けられており、介護サービス向上に取り組んでいる。地域交流を今後の目標課題に掲げており、自治会への加入や運営推進会議を活用しての施設の理解促進を行う等、交流基盤作りを目指している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人を尊重し安全で安心して楽しく、美しい共同体を地域を含めた和をもって確立する」という法人理念を掲示している。	「個人を尊重し安全で安心して楽しく、美しい共同体を地域を含めた和をもって確立する」を目指した法人独自の理念を掲げている。理念を明文化し、事業所内に掲示しており、職員・来訪者に周知・徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に挨拶をするようにしている。また、看板も設置し、地域の方々へ周知されつつある。	地域住民や近隣商店とは気軽に挨拶を交わす等の関係が築かれている。また、運営推進会議では町会長や民生委員の参加を通して地域交流を図り、施設の理解促進に取り組んでいる。	今後、施設として地域との交流及び自治会への加入を図り、地域との協力体制を構築し、地域に根差した施設となるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に貢献できる様、取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	24年11月に1度開催し、半年に1回定着していく。次回5月に外部評価の結果を報告する。	昨年、自治会長・民生委員・役場職員等を構成員として運営推進会議を開催している。会議では施設の活動報告や意見交換等を行い、施設の理解促進に努めている。事業所としては運営推進会議の必要性を理解しており、今後は年2回の開催を目標としている。	運営推進会議の定期的な開催を行い、地域や行政との情報・意見交換等を通して施設の理解促進を図り、サービスの質の向上に繋げて頂く事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉課の担当者に相談に行っている。	町担当者とは施設運営全般に関わる相談や報告を随時行っていると共に、町からの受入れ要請等にも対応しており、協力関係が図られている。運営推進会議において町担当者からの開催方法の助言や町職員の会議への出席等、行政からは支援・理解が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの手引き」を配布し、禁止している。玄関施錠については徘徊者の対応策を現在検討中。	身体拘束排除についての施設方針が明文化されていると共に、マニュアルが整備されている。職員全員が研修や会議にて正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は日中は施錠せず、入居者の自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員を教育すると共に、資料等を活用し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の機会があれば、出席させたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時に契約書等の説明を行い、理解していただいた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族に近況報告をし、意見、要望を聞いている。また、意見等挙がったものには、その都度適切に対応している。	家族の面会時や電話連絡時に意見や要望等の確認を行っている。入居者・家族から挙がった意見・要望等は、会議にて周知・検討を図り、適切な改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートに記入や、全体で月2回の会議が定着している。	申し送り時や会議時に職員の意見や提案を確認している。管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、意見や要望等を言い易いような環境作り心掛けると共に、挙がった意見・要望等は会議にて検討を図り、日々のケアに反映させている。また、外部研修参加の機会も確保されており、人材育成や就業環境の整備にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備に努めている。給与水準については、現場で査定するシステムになっていない為、反映されない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から研修案内があれば、積極的に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修に参加している。又、系列法人の運営する施設訪問を行っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意思が確認できる方は、要望に添える様努めている。できない方は、表情から安心を感じられる様、心がけている。また、スタッフにも寄り添う事の大切さを教えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いで、不安・要望等を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いで優先順位は何かを考え、状況の変化に応じ提案する様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、利用者に寄り添い、会話や行動をしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に現在の状況説明をし、本人と家族の話がスムーズにいく様サポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の交流があまり無いが、これからは運営推進会議や川島地区の事業に参加が出来る様、話が進んでいる。	施設そのものが入居者には馴染み深い造りであることから、慣れ親しんだ生活環境での暮らし継続が可能となっている。家族との外出・外泊は自由となっていると共に、施設行事への招待も行われており、家族との関係継続の支援にも取り組んでいる。また、一人ひとりの生活歴・趣味・習慣等を尊重し、馴染みの場所への外出支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が成立する事は少ないが、相性を見ながら、席やそれぞれのやる事などをスタッフも中に入り行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、他病院や施設入所した方への支援はしていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子観察、家族からの意向聴取や生活歴の確認により、対応を工夫して確認、本人主体の支援に努めている。	入居時に本人や家族から生活歴・身体状況等を確認していると共に、必要に応じて主治医から情報提供を受ける等、詳細な情報の把握に努めている。入居後は、日々の生活や会話の中から意向の把握に努めており、本人本位の生活を送ることができるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン、排尿・排便状況の把握、歌や絵、草むしりや畑仕事などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の求める介護計画に近づくよう作成し、3か月に1回見直しをしている。	本人や家族の意向や希望を踏まえ、職員会議にて検討し介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて見直しを実施し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送りノーター・会議・ヒヤリハット等を活用し、情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に合わせて職員からの提案などを取り入れながら、柔軟な対応ができる様心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と地域の関わりがあまりない為、今後関わりがもてる様支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所との協力医療機関だけでなく、利用者の必要とする医療機関への受診も対応もしている。	希望のかかりつけ医への受診が可能となり、必要に応じて受診の付添い支援も行っている。必要に応じて内科医による往診が実施されていると共に、定期的に歯科医の往診も実施されている。協力病院とは24時間対応可能な支援体制が構築されており、適切な医療支援が行われている。他に、定期的に看護師の訪問があり、適切な健康管理や医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師の訪問で、情報交換や指示を仰いでいる。また、最低でも3か月に1回の受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師と介護側で情報交換し、退院後に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「緊急時及び終末期の対応」をいただいている。一定期間を経て再度確認している。看取りでは、医療と連携を密にし支援している。	契約時に、重度化や終末期における施設の方針・対応等を家族に説明し、同意を得ている。重度化・終末期においては、定期的に入居者・家族の意向の確認を行うと共に、日頃から協力病院や関係機関とは連携を図りながら、施設として出来る限りの支援が行える様取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	判断が難しい時は、看護師に常時連絡が取れる体制となっている。初期対応は、研修に行った職員等による報告会で確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施・非常災害設備・避難経路図の掲示。	年2回、消防避難訓練を実施していると共に、火災報知機・消火器・非常誘導プレート・避難経路図等を配置し、災害時・緊急時に備えている。職員は救命救急の講習を受講しており、災害時の対応方法を身に付けている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応が十分にゆきとどかないこともある。プライバシー保護の配慮に関する研修への参加は出来ない。	管理者が接遇やプライバシー保護については日常的に確認を行い、その都度指導している。全職員は入居者への尊厳厳守や一人ひとりに合わせた言葉掛けや介助方法に配慮する等、プライバシーを意識しながら日々の支援に努めている。	プライバシーの保護に関する研修は実施されておらず、全職員による認識の共有が図られていない。今後、内部・外部研修への参加を通じて、職員一人ひとりが知識や意識の向上を図ると共に、全職員がプライバシー確保の共通認識を持ちながら日々のケアに活かすことを望みます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せる利用者は多くはないが、こちらから提案をしたりして、その中から選んでもらう様にしたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はなく、個々が自由に過す。スタッフが案を出し、散歩・買い物・畑仕事・折り紙等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族から持ち込まれた衣類の中で気配りする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けを、スタッフが利用者をサポートしながら、本人が出来るところはしていただいている。また、季節ごとに行事食の提供も行っている。	入居者の希望や能力に応じて食材の買い出しから片付け等を職員と共同で行っている。献立は、同法人の栄養士が作成した献立表を基本としており、栄養バランスのとれた食事が提供されている。また、入居者の希望を取り入れた手作りおやつ・季節ごとの行事食・外食会等の提供もなされており、食の楽しみを広げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列法人の栄養士が作成した献立を基にしている。食事や水分の摂取量は、ケース記録に記入。利用者の状態の変化に応じて、食事形態も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に2回訪問歯科を受けている。一人でケアできる利用者は、時間がかかっても声かけ・見守りで対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに応じたトイレ誘導を心がけている。排泄チェック表を活用している。	排泄チェック表を活用しながら一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な排泄支援が行われている。声掛けの工夫や適切なトイレ誘導等を行い、身体状況に応じた排泄の自立支援に取り組んでいる。必要に応じて献立の工夫等や医師・看護師と相談をしながら排泄コントロールを行い、適切な排泄習慣の確保に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェック、乳酸菌飲料の摂取。自然排便のない時は、医師に相談している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ホームとしての入浴日の決まりがあるが、順番はその時の利用者の状況に応じて対応している。また、柚子風呂(冬至)や、入浴剤で保温効果や季節感を味わってもらえる様に努めている。	入浴日を定めているが、希望や体調に応じて曜日や回数の変更等、柔軟な対応を行っている。また、必要に応じて足浴等を実施して清潔保持に努めている。その他、沐浴剤等を活用し、入浴の楽しみが広がり、気分転換が図れるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコン完備。日中居室で休まれる方や、夜間の室温調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を参考にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・ペーパー折り・新聞折り等、買い物や散歩に出たり、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の要望や天気の良い日には、外出の機会を確保している。季節ごとの行事には、外出できる様支援に努めている。	入居者の希望や体調に応じて散歩や買い物等の日常的な外出を実施し、外の空気を気軽に楽しめるよう支援している。また、天候や季節等を考慮しながら外出行事も企画されており、戸外での楽しみを支援している。同法人のグループホームとの行き来が頻繁に行われており、外部の人との交流が行われ、入居者の生活活性化が図られている。外出時には同法人の車両を活用しており、全入居者・全職員が出掛けられるよう配慮し、家族にも参加してもらおう等、外出の楽しみが共有できるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、対象となる利用者が1名。その他の利用者はないが、支援する様努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度の利用者には出来ていないが、軽度な利用者には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を利用した施設なので、全体に家庭的。日当たりの良い縁側等、利用者が自由にくつろげる空間を確保している。	施設は民家を改修しており、古民家特有の温かみや親しみを活かした施設作りがなされている。入居者の身体状況に考慮し、職員が手すりやスロープ等を増設しており、入居者の安心・安全が確保されている。また、日当たりの良い広い縁側は総ガラス戸で解放感があり、入居者の憩いの場となっており、入居者が思い思いに生活できるような空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や和室・縁側にソファを置いてあり、それぞれに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族の希望に応じたものを持ち込む事が自由。エアコンも完備しており、空調管理が適切になっている。	希望に応じて、馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、希望に応じて洋室・和室・ベットや布団等に変更する事が可能となっており、個々の生活歴や生活スタイルに合わせたその人らしい居室作りがなされている。各居室にエアコン等が設置されており、適切な空調管理が行われている。旧農家の住宅である為に、居室それぞれが座敷・仏間・納戸等、昔の用途に応じて内装が違っており、入居者一人ひとりの個性が反映された居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	古い民家を改修している為、バリアフリーではないが、所々にある段差には、声掛や・見守りで対応している。		